

SUBARU Impreza WRX STI spec C type RA-R

italvolanti
Steering Wheel



original horn button



2008年9月18日

本日注文しておいたステアリングホイールが届いた。TeamORANGEプロデュースitalvolanti (伊) 特製オリジナルステアリングホイールだ。ホーンボタンはTeamORANGEのoriginaldesignである。ホイールの握り心地はさすがイタリア製レザー、しっとりとして抜群の感触である。特徴的なitalvolantiのステッチも健在でテーマカラーに染められている。

italvolanti

Team
ORANGE
DRIFT PERFORMANCE TEAM

見るからに操作性の良さそうなホイール形状だ！



TeamORANGEoriginalを示す型押し
センターマークもオレンジレザー



何とブラックスポークは、オレンジの縁取りという拘りよう！

裏から見て

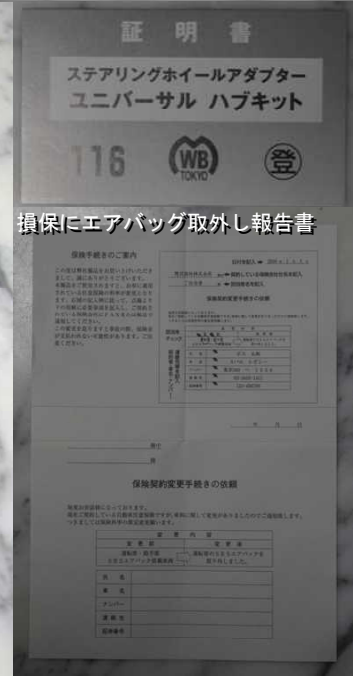
グリップ感の良さそうな裏側



2008年9月27日 この日やっと9月12日に発注したパーツβTITANIUMのステアリング取り付けビスが届いた。実はその前の26日に三重スバルで付属のビスでステアリングホイールの取り付け作業を実施した。しかしディーラーのメカニックらしいミスで取り付けが困難になってしまっていた。どういことかという、Works Bell製のスアリング・ボスを取り付けるとき、どうやらメーカーの指定している(取付説明書にも明記されている)3~4kg/mというボルトの締め付けトルクを越えて締め込んだらしく、ボスのステアリングシャフトとの勘合部にクラックが入ってしまったのだ。すぐに私がディーラーからWorks Bellに直接電話で問い合わせたところ、「3kg/m以上のトルクで締め込むとクラックが入ることがあります。衝突安全性を考えてあえてそういう構造になっています。」ということだった。このままでは仕方がないので、ディーラーからWorks Bellにクラックの入ったボスを送ってもらい、何が原因でクラックが入ったのかWorks Bellで判断してもらうことになった。いづれにしろ時間と手間のかかることになってしまった。たぶんこちら側のミスだと思うので、ディーラーが弁償することになるだろう。

懸案であった純正ステアリングホイールのセンターが右に10度ほどずれていたのだが、それは直してもらった。

ところでβTITANIUM製の取付ビス、サラボルトM5×15LのTIDC-05015(B)は、相変わらずイイ出来のビスだ。とにかくステアリングホイールはドライバーに一番身近なパーツで、いつも目の前にあるのでやはり本当に気に入ったものでないとダメ！チタンブルーのビスがTeamORANGE italvolantiを飾る日も近い！



こちらはまずサビとは無縁の64TITAN製のビス。しかも美しいチタンブルー。



ノーマルのビスは、スチール製で以前取り付けした時も経験しているのだが、長期間使用すると、必ずサビが発生してくるのだ。



βTITANIUM



いつ見ても私の目を楽しませてくれるチタンブルーのボルトは、工芸品と言っても過言ではない。

SUBARU Impreza WRX STI spec C type RA-R

italvolanti
Steering Wheel

2008年10月3日 本日やっとTeam ORANGE オリジナルitalvolanti steeringwheelの装着を、三重スバルにて実施した。

この純正steeringwheelともお別れた。



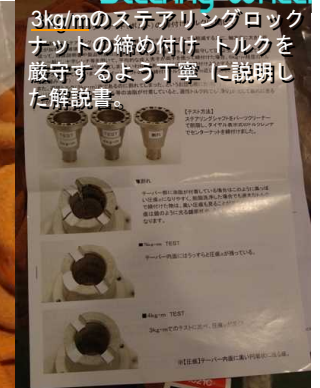
Works Bellに返却したクラックの入ったアダプターを検証してもらった結果、無償で交換に応じてくれ、新品のアダプターが昨日三重スバルに届いた。ただし今回は3kg/mのステアリングロックナットの締め付けトルクを



作業開始！



昨日届いたadapterの新品。



3kg/mのステアリングロックナットの締め付けトルクを厳守するよう丁寧に説明した解説書。

純正steeringwheelの左右のトルクスボルトを緩める。



エアバッグ部分の取り外し



steeringwheelの抜き取り



剥き出しのsteeringcolumn



正確に指定通り3kg/mのトルクでadapterを締め込む。



エアバッグキャンセラーを結線する。



慎重に6本のβTITANIUM製steering vtsを締め込んでいく。



厳守するよう、その根拠を説明した丁寧な解説書が添付されていた。作業はまず純正steeringwheel取り外すことから始まった。ホイールの両側にあるトルクスネジを緩めて、エアバッグ部分を取り外し、ステアリングロックナットを緩める。次にホイール部分を引っ張って本体をステアリングシャフトから抜き取る。以上で純正steeringwheelの取り外しは終了だ。続いてステアリングシャフトのグリスを丁寧に拭き取り、Works Bell製のsteeringwheel adapterを、規定の3kg/mのトルクで慎重に締め付ける。次にエアバッグキャンセル用の抵抗入りUターンハーネスを接続して、遊ばないようにadapterの周りに巻き付けて、電装用絶縁テープで固定する。引き続き付属のカバーをかぶせて、steeringwheelに付属していたitalvolanti製の ホーンボタン用スチール製スペーサーを挟み込んで、steeringwheelの本体を、用意してあったβTITANIUM製のサラボルトで固定した。後はホーンボタンを専用ハーネスで結線してsteeringwheel中央の穴に嵌め込んで全て終了だ。見た目の軽快感や美観は純正と比べて 見ての通りである。

ホーンボタンを嵌め込んで完成！



SUBARU Impreza WRX STI spec C type RA-R

2008年10月3日 この日待ち望んでいたTeamORANGE ORIGINAL italtolanti製steering wheelが装着された。



**Team
ORANGE**
DRIFT PERFORMANCE TEAM

TeamORANGE ORIGINALのsteering wheelとshift knobのcombinationがCool!



italvolanti
Steering Wheel
βTITANIUM



titanium blueがアクセントに...



toeの微調整をして、steering wheel centerを出していく。



三重スバルの山本さん、ありがとうございました。

SUBARU Impreza WRX STI spec C type RA-R

italvolanti
Steering Wheel



THE COCKPIT

